

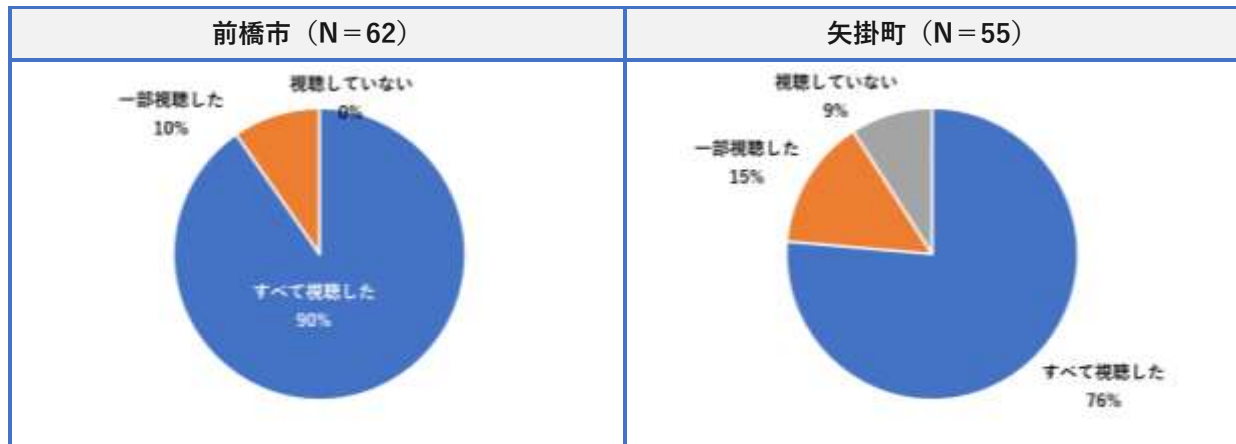
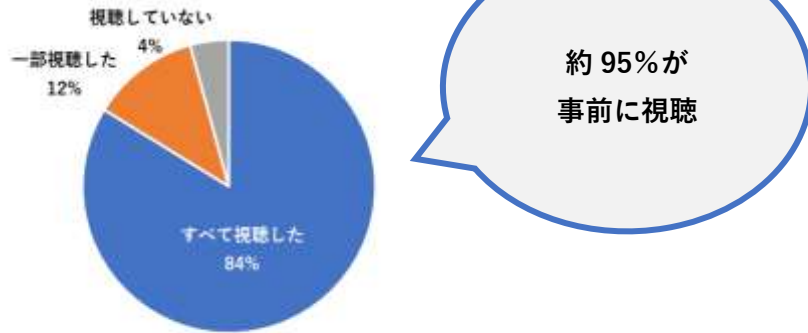
令和4年度 避難生活支援リーダー/サポーターモデル研修

受講者アンケート結果（前橋市・矢掛町実施分）

オンデマンド講座 アンケート

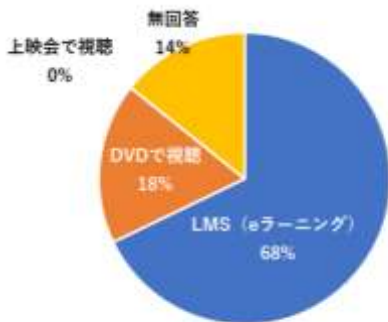
Q1. オンデマンド講座の受講状況、受講方法

○受講状況（前橋市・矢掛町合計） N=117



※研修1日目実施3週間～1か月前までに受講者にオンデマンド講座の視聴機会を提供

○受講方法（前橋市・矢掛町合計） N = 112

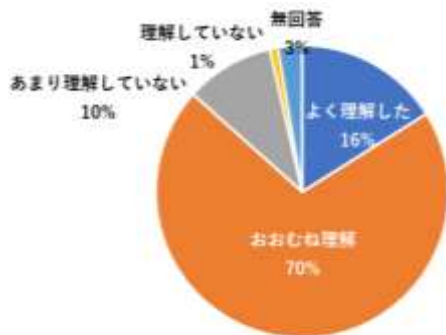


7割が
LMS で視聴

前橋市 (N = 62)	矢掛町 (N = 50)																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>受講方法</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上映会で視聴</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>DVDで視聴</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>LMS (eラーニング)</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>16%</td> </tr> </tbody> </table>	受講方法	割合	上映会で視聴	0%	DVDで視聴	10%	LMS (eラーニング)	74%	無回答	16%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>受講方法</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上映会で視聴</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>DVDで視聴</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>LMS (eラーニング)</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>12%</td> </tr> </tbody> </table>	受講方法	割合	上映会で視聴	0%	DVDで視聴	28%	LMS (eラーニング)	60%	無回答	12%
受講方法	割合																				
上映会で視聴	0%																				
DVDで視聴	10%																				
LMS (eラーニング)	74%																				
無回答	16%																				
受講方法	割合																				
上映会で視聴	0%																				
DVDで視聴	28%																				
LMS (eラーニング)	60%																				
無回答	12%																				

Q2. オンデマンド講座の内容の理解度、情報量／長さ

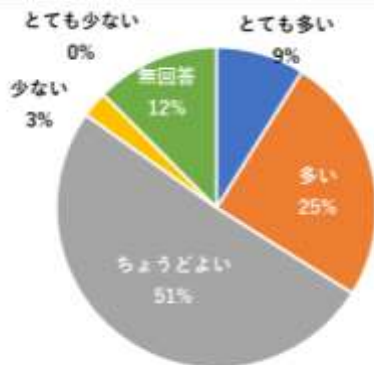
○理解度（前橋市・矢掛町合計） N = 112



85%が
「理解した」と
回答

前橋市 (N = 62)	矢掛町 (N = 50)																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	18%	おおむね理解	68%	あまり理解していない	14%	理解していない	0%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	14%	おおむね理解	74%	あまり理解していない	4%	理解していない	2%	無回答	6%
理解度	割合																						
よく理解した	18%																						
おおむね理解	68%																						
あまり理解していない	14%																						
理解していない	0%																						
理解度	割合																						
よく理解した	14%																						
おおむね理解	74%																						
あまり理解していない	4%																						
理解していない	2%																						
無回答	6%																						

○情報量／長さ（前橋市・矢掛町合計）N=112



50%が「ちょうどよい」と回答
35%が「多い」と回答

前橋市 (N=62)	矢掛町 (N=50)																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても少ない	0%	少ない	2%	無回答	8%	多い	27%	ちょうどよい	58%	とても多い	5%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても少ない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>少ない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>とても多い</td> <td>14%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	とても少ない	0%	少ない	4%	無回答	18%	多い	22%	ちょうどよい	42%	とても多い	14%
回答	割合																												
とても少ない	0%																												
少ない	2%																												
無回答	8%																												
多い	27%																												
ちょうどよい	58%																												
とても多い	5%																												
回答	割合																												
とても少ない	0%																												
少ない	4%																												
無回答	18%																												
多い	22%																												
ちょうどよい	42%																												
とても多い	14%																												

Q3. 印象に残ったプログラム（前橋市・矢掛町合計）最大3つまで回答



前橋市 (最大3つ)	矢掛町 (最大3つ)																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>プログラム</th> <th>回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.人材育成の必要性</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2.支援者としての心構え、姿勢</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>3.災害「支援」の基礎知識</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>4.避難所における基礎知識</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>5.被災者への配慮とニーズ対応</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>6.避難所運営の知識とスキル①</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>7.避難所運営の知識とスキル②</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>8.日常からの取り組みの重要</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>	プログラム	回答数	1.人材育成の必要性	9	2.支援者としての心構え、姿勢	18	3.災害「支援」の基礎知識	16	4.避難所における基礎知識	17	5.被災者への配慮とニーズ対応	29	6.避難所運営の知識とスキル①	18	7.避難所運営の知識とスキル②	19	8.日常からの取り組みの重要	28	<table border="1"> <thead> <tr> <th>プログラム</th> <th>回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.人材育成の必要性</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>2.支援者としての心構え、姿勢</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>3.災害「支援」の基礎知識</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>4.避難所における基礎知識</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>5.被災者への配慮とニーズ対応</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>6.避難所運営の知識とスキル①</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>7.避難所運営の知識とスキル②</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>8.日常からの取り組みの重要</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>	プログラム	回答数	1.人材育成の必要性	12	2.支援者としての心構え、姿勢	27	3.災害「支援」の基礎知識	11	4.避難所における基礎知識	15	5.被災者への配慮とニーズ対応	19	6.避難所運営の知識とスキル①	7	7.避難所運営の知識とスキル②	8	8.日常からの取り組みの重要	26
プログラム	回答数																																				
1.人材育成の必要性	9																																				
2.支援者としての心構え、姿勢	18																																				
3.災害「支援」の基礎知識	16																																				
4.避難所における基礎知識	17																																				
5.被災者への配慮とニーズ対応	29																																				
6.避難所運営の知識とスキル①	18																																				
7.避難所運営の知識とスキル②	19																																				
8.日常からの取り組みの重要	28																																				
プログラム	回答数																																				
1.人材育成の必要性	12																																				
2.支援者としての心構え、姿勢	27																																				
3.災害「支援」の基礎知識	11																																				
4.避難所における基礎知識	15																																				
5.被災者への配慮とニーズ対応	19																																				
6.避難所運営の知識とスキル①	7																																				
7.避難所運営の知識とスキル②	8																																				
8.日常からの取り組みの重要	26																																				

Q4. 印象に残った内容をお聞かせください

前橋市

- アイスブレイクが重要で被災者から困りごとを聞き出すことが大切であると思った
- 被災者の様々な背景に配慮しなければならないこと。支援者として多様性をもって接することの必要性を改めて理解した
- これまでの災害での課題や対応の事例が参考にできる良い内容であった
- 説明が分かりやすくて良かった。eラーニングなので止めたり出来て理解しやすかった
- 実際に地震等の災害に倉敷の話が良かった。一人一人に何が出来るかを考えて動いている様子が理解できた。今後、自分に何が出来るかは不安ではあるが一つでも役に立てるよう学びたい
- 倉敷市社協さんの水害前の地域住民のつながりが命を救った話。水害後の避難所解消前に開催した行事、そのあとも集いの場が増えた事など示唆に富む話であった
- 倉敷市の氾濫時の避難の実体験は印象に残った
- 日常からの取組が避難所で役立ち、地域での交流がとても大切という事が印象に残った
- オンデマンド講座を聞いて避難所運営のスキルをよく理解した
- 災害を知りなぜ支援が必要になるのかを知ることができた
- 知識とスキルが少々難しいと感じたが、今回は初めの一步として勉強したい
- 赤十字の「災害時高齢者生活支援」の内容を学んでいるため、理解しやすかった
- リーダー/サポーターの期待される役割等が一回視聴しただけでは理解できず、何回か繰り返し視聴した。聴く・寄り添うことを日頃から心掛けていかなければならないと感じた
- 避難者が関係者などの共通認識などのコミュニケーションが何度もできたのが印象に残った
- 支援者のメンタルサポート・関係法との支援内容が印象に残った
- 避難所運営にあたって必要な配慮・工夫といった内容が印象に残った
- 被災者の気持ちの配慮がとても考えられた内容であり、多くの人に受講してもらいたい
- 被災者の多様化、実際被災された地域のつながり方
- 支援者のセルフケアが印象的
- 日頃からの繋がりが災害の際に大きな力になることは良く分かった
- 避難所における女性への配慮、要支援者へのアプローチ、受付時のジェンダーへの配慮
- 横文字や難解な言葉が少なくわかりやすかった。事例などの話があると制度や論理がより分かりやすい。今後全国各地でこのような研修を行うのであれば、字幕や手話通話があると受講できる方の幅が広がると思う
- いずれも大切な内容であったが情報量が多く、なかなか理解するに至らなかった
- テキスト内容とほぼ同じであったので、実施状況等の動画を取り入れ分かりやすいストーリー制にした方が良かったのではないか
- 項目としては章立てが良いが、研修テキストとDVDの構成順が違っていた
- 避難所運営は被災された方、それぞれのニーズに合わせた対応の必要性と難しさを感じた
- 前半部分は同じ内容のくりかえしで飽きてしまった
- 被災者の運営の人に指導、課題を指摘するのではなく、被災者や運営の人達をサポートする姿勢が大事。リーダーという名称は不向きではないか
- 災害時の制度の知識について理解が十分できなかった

矢掛町

- 倉敷市の取り組み、真備の水害
- 真備地区での日ごろからの取り組み
- 真備地区での実践が印象に残った。参考になる点があった
- 真備・西日本豪雨・日常からの地域とのつながりが避難につながった例
- 真備での実際の現場対応は参考になった
- 日常から地域での防災を通じた連携
- 真備町の避難所のスタッフとして市職員である友人が参加していた。話を聞くと「自分でできる事を」と思い、視聴した
- 災害支援の補助金等について、当面の活動資金や日常からの心構え
- 避難所で私たちにできることはあまりないが「基礎知識を知っているだけで行動できる事があるのでは」という事が必要であると理解できた
- 多様な被災者の対処の仕方が実際には体験と感じた
- 具体的な状況が例としてあったのでわかりやすかった
- 災害関連死とされる死亡の原因が判らなかつた
- オンデマンド講座の一つ一つの時間の長さが適切であり、忙しい中でも視聴することができた。プログラムの中では支援者としての心構えが印象に残った
- 被災者のよりそい情報の共有化、その気持ちになる
- これから細やかに取り組み対応していくことになる。心構えや基礎知識が参考になった
- 多様な被災者への配慮とニーズ対応において被災者の心の変化への気づきの大切さ
- 避難所はただ避難さえできればいい場所ではないということがわかつた
- 一番印象に残ったことは避難所内に居る人の能力を発揮して運営に生かすこと
- 多様な方々が避難されてくるが各々のニーズを把握して対応している必要があること
- 被災された方へのニーズを鳥の目のように虫の目のように見る
- 被災された方と支援者をつなぐ
- どのプログラムもよかつた。時間の配分も良くわかりやすかつた。今後に生かしたいと感じた
- 避難生活支援リーダー／サポーターとしての立場が理解できた
- 避難者の気持ちと多様性への対応の重要性、共感できるか自信がない
- 内容が多様、大量であり受講者に要求されるのはどこまでなのか。自分に対応できるのか不安になつた

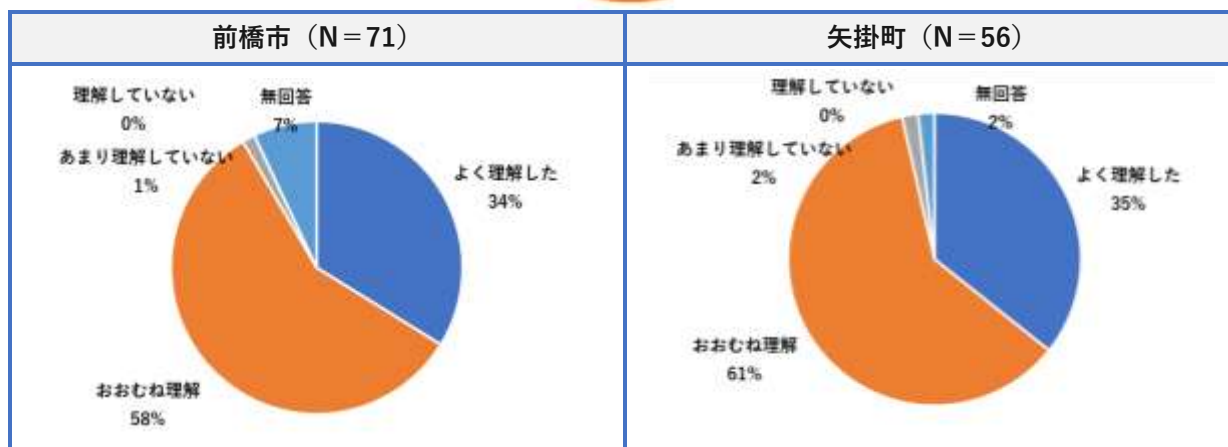
研修1日目 アンケート

Q1. 1日目の全体の内容の理解度、長さ

○理解度（前橋市・矢掛町合計） N=127



約95%が「理解した」と回答

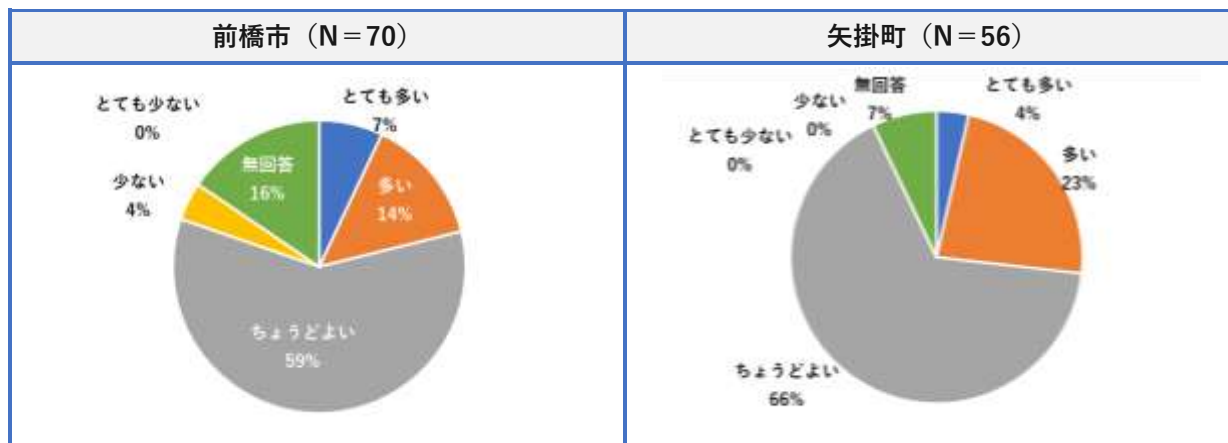


○情報量／長さ (N=127)



6割が「ちょうどよい」と回答
2割弱が「多い」と回答

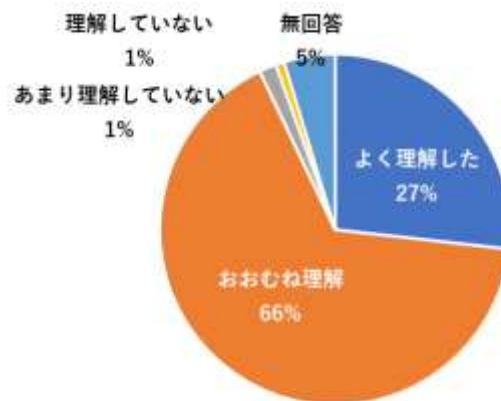
○情報量／長さ (N=127)



Q2. プログラム項目それぞれの満足度、印象に残ったこと

基礎講座 1

○理解度 (N=127)



約95%が「理解した」と回答

前橋市 (N=70)	矢掛町 (N=56)																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	28%	おおむね理解	66%	無回答	4%	あまり理解していない	2%	理解していない	0%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	25%	おおむね理解	66%	無回答	5%	あまり理解していない	2%	理解していない	2%
理解度	割合																								
よく理解した	28%																								
おおむね理解	66%																								
無回答	4%																								
あまり理解していない	2%																								
理解していない	0%																								
理解度	割合																								
よく理解した	25%																								
おおむね理解	66%																								
無回答	5%																								
あまり理解していない	2%																								
理解していない	2%																								

○印象に残ったこと

前橋市

- 狙いがはっきりと理解出来た
- ビデオの内容と合わせて分かりやすかった
- 1つとして同じ被災地はない、地域の人達と一緒に考えていくというキーワードが印象的
- 中長期の支援経験がなく、ボランティア側ばかりだったので良い学びであった
- それぞれの力が発揮できるようなサポートエンパワメントが大事ということ
- リーダー/サポーターとしての自覚、姿勢について考えさせられた
- 災害関連死を起こさせないために専門家の介入前に地域住民でも防げるという意識
- 災害関連死を起こさせないアプローチの重要性
- 専門的スキルのある方はほとんどの方が知らないと思うので考えてもらいたい
- 地域に根差した活動が発災時にも重要で日頃からの準備の大切さを改めて感じた
- 関わる人を増やしていくことが大切ということ
- 避難所は生活の場であること
- 災害時に避難所運営の課題など理解した
- 説明が分かりやすかった。速さもスピーディー過ぎず落ち着いて聞くことができた。事前にオ

ンデマンドで基礎知識を身につけたうえでの講義だったのでより分かりやすかった

- 避難所生活が長くなると様々な弊害が出てくる、それをいかに日常に近づけていくのか、そして関連死を起ささないようにすること
- 災害関連死の多さ。それを予防していく考え方
- 災害時に、多くの連携が必要であり住民同士の連携も不可欠であり、防災力の向上や避難された方への配慮が行き届くことに繋がる
- 避難所に避難した後に部屋を移動するということがあると心も体も負担がかかるので、あらかじめ部屋の役割を決めておくことはとても大切だと感じた
- テキストで勉強した事をおさらいできて良かった
- 説明だけでなく委員のコメントも参考になった
- 事前の学習もあって良く理解できた
- 取り組んでみて改めて難しさを感じた
- リーダー/サポーターとしての役割は理解したが実際にその場面になった場合は不安である
- 経験がなく現場でできるのだろうか
- 自分にできることはあるのか

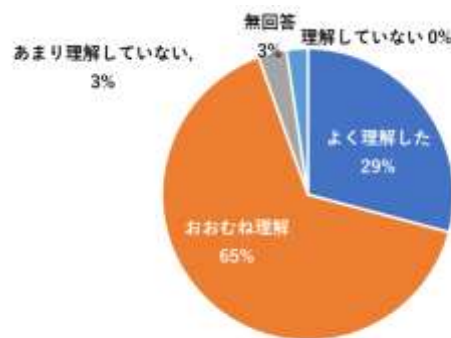
• 矢掛町

- 災害関連死を防ぐために、避難生活の環境向上が重要であるということ
- 本研修会の目的・目標が明確に示されていた
- 避難生活支援リーダー/サポーターの役割・課題
- 生活環境向上に率先して取り組むことができる人材
- 経験していないことなので、その多様性に驚くばかり
- 避難者の状況はそれぞれ異なること、それを十分理解してサポートが必要
- 事前研修（オンデマンド）で学習していたことと重なる内容が多く理解できた
- 災害関連死をなくすということの必要性を深く考えることができた
- 避難所の運営に関する認識・知識不足
- 災害関連死される方がとても多い。それを0にするために地域住民やボランティアが行政だけに任せることなく工夫しながらくい止めるようにしていく
- 一人では出来ないこと、自助、共助、公助が大切
- リーダー/サポーターの役割や期待されるものを感じとることができた
- 行政のみではまわらない、住民の参加が必要
- 避難所は短期的なものだという考えではなく、様々な人の生活に視点をおきたいと感じた
- 過去からの勉強しこれからの支援に役立つ話しを聞いた
- 支援する人をふやすことができれば、多くの被災者の方を理解し、配慮することができるという事を知った
- 災害関連死を起させないアプローチのための人材育成の大切さ
- 被災者に対して自分がどう向き合っていけばよいのか勉強になった
- 困ったことが言い出しにくい人の声かけが大事であると思う
- 被災者の声をていねいに聞き心情に添い対応
- 3つの大事にしたい姿勢、災害関連死を起させないアプローチは納得できた
- 分かったつもりでも実際に出来るかでもその時にやらなければならない

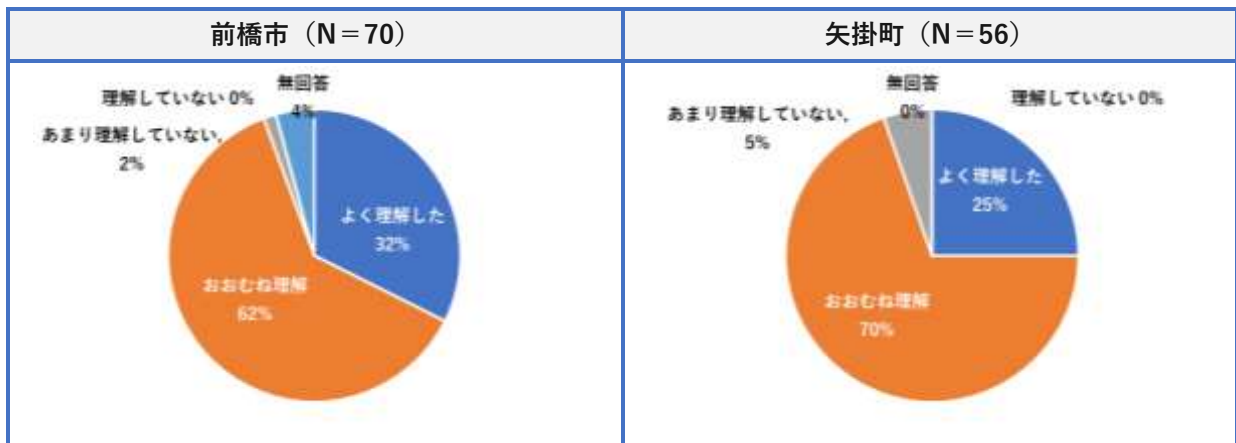
- 多様な面からの支援する人の連携の必要性
- 避難生活支援リーダー／サポーターのあり方・重要性が良く分かった
- 自己肯定感のある人がサポート役になるとよいと思った
- 参加した人間はあくまでリーダーの支えとして、被災者へのかかわりについて考えられた
- 一人一人違うので聴いて確認していくこと
- 有識者の方も含め今回の企画が人に寄り添う姿勢を理解するものになっていることにうれしく思った
- アジェンダという言葉は住民からしたら聞き覚えがないと思う。なるべく住民目線の言葉選び、資料にした方がいいのではと思った
- 関連の資料が適確だったが、事前の学習と被っている
- 重要度はわかったが、自分はどこまでやればよいのか

基礎講座 2

○理解度 (N=127)



約 95%が「理解した」と回答



○印象に残ったこと

前橋市

- 災害時における要配慮者の立場への対応が理解出来た。今後の訓練等に生かしたい
- 寄り添うとは難しいものだという事がわかった
- 自分だったら相談が出来るだろうかと被災者の気持ちが分かった気がする
- 避難所は元気でいる場所でなくてはいけない。考えたこともなかった視点だった
- 一人一人を「個」を大切に対応すること

- ジェンダー配慮が最近になって気を付けなければならない部分
- 避難所は生活再建をする一步手前の場所なので次に向けての希望が持てるようにする
- 生活再建は長い道のりであることを改めて理解した
- 被災者としての立場を考えた
- 多様性を尊重する事。意外にできていない方が多い
- 地域が違えば1つとも同じ災害はないこと
- 時間が少ない。意見をもっと出し合いたかった。
- 被災者の立場に沿った対応をすること
- 困りごとと避難所はいっぱい。全ての方は別々の困りごと
- 1つとして同じ被災地、地域はないということ
- 感性を大切にするために支援者が健康で集中できる環境が大切と考えた
- 実践者の講義はとても分かりやすかった
- 避難所の実態と問題点
- 東日本大震災の時を思い出した。日ごろから意識した方が良かったと思った
- 多様性一言葉ではりかいしているつもりだが気持ちの部分で差別的なことがないとはいえないのでより理解していきたいと思った
- 被災者は同じ災害にあっても一人ひとり違う。ひとくくりにしないということ
- 「遠慮や気兼ね」での実際に経験された話
- 宿泊施設ではない、場所が避難所となる
- 講師の実災害（熊本地震）での経験談が印象的
- 支援する方々へ声掛けの大切さを感じた
- 個別性を意識して関わる
- 現場の話から臨場感があった
- 極論の例をあげたが現場には他にも問題のある方がいっぱいいるのでしょう
- 被災者毎のサポートには多種多様でありむずかしい。被災者の情報があれば対応しやすい
- 実際の弦間が想像できた
- 避難所は生活再建までの中継地点、そこで気持ちが折れたり、体を壊したりしないよう運営をサポートする必要がある
- 避難が長期に及ぶことでの課題など気づくことができた
- ひとりひとり心情や立場等異なるということ、こちらの思い込みは良くない
- 実際の出来事をもと説明頂いたことは印象に残った
- 様々な事例を写真や動画を見ながら話して、身近に感じながら講座を受けることができた。可能であれば要配慮者のなかでも障害者は障害種別に対応例、事例を聞いたかった
- 元々宿泊施設ではないところが避難所になるから泊まれるようにするのが大変
- 様々な被災地での体験はやはり印象に残る。逆にそのような体験は広く長く語っていく必要
- ニーズにこたえるための声掛けの仕方、自己紹介からお互いに話をする、どこに注意するか普段の生活を今といまこまっていることはないか？
- 避難所の実情一ヶ月経過しても日常生活のレベルには程遠い
- 遠慮や気兼ねのお話し。通常の思考ではなくなる災害の怖さ
- 生活再建に向けた課題、配慮が必要な方たちの例等

- 解決すべき課題が沢山あることを思い知らされた
- 皆さんで協力して、課題を解決していければと思った
- 避難所での声のかけ方
- 参加した自分が他の人へ伝えることも必要かと思った
- 避難所に避難する人は一人一人状況も心情も違うのだと改めて気づいた。また、自分の班の人やほかの班の人の意見を聞いて、共感する部分や新たな発見が多くあった
- 被災者理解などの共通点(支援研修の総合化の可能性)
- 同じく良くわかった。要配慮の具体的な話が印象的でした。

• 矢掛町

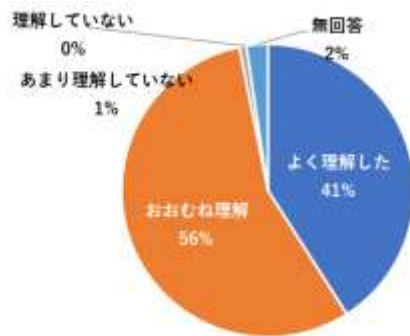
- 過去の動画は人の心を、揺さぶるのに大きな効果があった。今も同じなのでは、と思われてしまうので最近の上手くいっている避難所の様子（パーテーションや声掛け）がわかる動画があるといいなと思った。
- さまざまな被災者がいらっしゃってじゅうぶんな配慮が必要だということ
- 具体例が呈示されたが、解決策が不明なままで終了。「答えがない」は答えにならない。経験値に差がある研修参加者のレベル合わせ、ベクトル合わせにはなった
- 災害時における要配慮者の名立場と理解の必要性
- 避難者の気持ち・心情への理解、寄り添うことの大切さ学んだ
- 1995.1.18 朝の避難した被災者の状況映像からその大変な状況を想像することができた
- 被災者に対しての対応、心遣いが必要
- 現場での積み重ねの体験でよく理解できた
- 要配慮者のこと、たくさんの立場の方がいてそれぞれに対応することも難しさを再認識できた。
- 高齢者の対応の扱い
- 心情を聞き出すのは自分には難しい
- 観察力・想像力が自分にもっとあってほしい
- 遠慮や気兼ねをする人が多い。おせっかいをやって声をかける。多様性を尊重する。一人ひとりちがう立場を理解する。社会的立場にも思いをはせながら
- 他人や外国人に平等に対応できるか心配。多様性の知識はあるが実感は少ない。
- 尊重と配慮（トイレ等）障害者にも支援と理解
- 助けてと言えない人たちがいることに気づき「目に見えない変化」豊和感を感じる大切さ、声掛けの温かさの内容にうれしく思った
- 屋外で生活（避難されている）方の写真からさまざまな問題や課題を引き出したこと
- 避難所の生活環境は周りの「力」をかりる事で変える事ができる。他人の常識を受け入れる気持ちを持つ
- 性別、ジェンダーに対する配慮
- 被災者のこまりごとはそれぞれ数多くあること、個別に対応することの必要性
- 現場の状況において様々な方々がいること、様々な課題があることを再認識できた
- 実例を聞きながら考える事が出来て勉強になった
- 被災者の思いは一人一人異なること
- 被災者への配慮の仕方
- 想像すること、イメージをふくらませることで多くの方の不安や悩みを少なくし自尊感情を高

めていけることにつながるのだと思った

- 災害関連死を起こさないために、避難者の多様性を考える事
- まずは多様性について知り、理解することが必要だということ。
- 色々な状況によって対応がことなってくるのがわかった（高齢者、障害者、子供など）
- 避難者の立場になって行動をする。体の具合の確認をする。
- 動画視聴があり理解度が増した。
- 被災者の状況立場は一人一人異なる
- 災害時における配慮者について細かい配慮が必要だと感じた。
- ジェンダーや性的マイノリティという視点が欠けていた
- 想像以上に実態の状況は厳しいとそのことを理解して対応しなければならない。
- 多様性の理解←対応の難しさ、どこまで寄り添えるのか。
- 映像・写真での講義よく理解した
- 期待される役割として多様性を尊重する。
- 多様性の理解が必要でそれぞれへの対応を知らねばならない。
- 多様性を尊重する事の大切さに気付いた
- ①生活環境を変えていく事②多くの人の力をかりて変えていく事が大切であると…！が印象に残っている
- 具体的な実践例を通して被災者への理解が得られるので、自分自身の引き出しを多くすることが大事だと思う
- 避難所のことだけに終始しがちだが、在宅の方にも触れておられていたこと

ワークショップ

○理解度 (N=127)



ほぼ全員が「理解した」と回答

前橋市 (N=70)	矢掛町 (N=56)																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	41%	おおむね理解	55%	無回答	4%	あまり理解していない	0%	理解していない	0%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>57%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	41%	おおむね理解	57%	あまり理解していない	2%	理解していない	0%
理解度	割合																						
よく理解した	41%																						
おおむね理解	55%																						
無回答	4%																						
あまり理解していない	0%																						
理解していない	0%																						
理解度	割合																						
よく理解した	41%																						
おおむね理解	57%																						
あまり理解していない	2%																						
理解していない	0%																						

○印象に残ったこと

前橋市

- 自分が同じ立場の場合、同じ対応になるのかと思い今後の対応する参考になった
- 色々の意見がある、これをいかに集約するか難しい
- 体に不安のある方の心情が知ることができ良い経験になった。少しでも避難している人に寄り添えられたらと思った
- 所属が色々だと視点が広がって自分ではわからなかったことに気づけて良かった。その中でまとめていくことの大切さにも気づく事ができた
- 親身になって声を掛けることが大切。事務的では相手も受け入れてくれない
- 相手の気持ちをくむための言葉がけ言葉選び方が大切。言葉の奥にあるものに気づくこと
- 年齢や普段の地域活動の立場が違う方の話がきけてグループワークが有意義に行えた
- 皆さんが自分の事として対応を考えていたところが良いと思った
- ただ支援するというだけでなく、その人がどうしたいのか、その人が元々持っている力を引き出せる支援が大切だということ。自分でできることは自分で行ってもらう
- 相手方の気持ちに合わせる同じ目線
- 被災者の立場を理解するために話しやすい環境を作り支援必要な事を見つけることが大切
- 地域の人が「素人性の発揮」としてどこまで本人によりそえるかが大切
- グループワークで意見交換でき、意見も集約できた
- 各班とも1つずつ程度違った視点があり、多くの意見を寄せる大切さを感じた
- 色々な意見がきけて気づく事が多かった。自分の固定観念では解決できないことがある

- 各グループの発表で様々な気づきがあった
- どこにつながればよいのか、などの知識を有している必要があると思った。自分で解決できないことは分かる人へつなぐことの大切さ
- 人の気持ちを理解することは難しいが声かけがとても必要だと思った
- 意見を伝え合うことは避難所でも大切なこと。自分のことで精いっぱいになっている中で「自己主張」ではない意見の伝えあい、寄り添うことが大切であること
- 様々な職種の方々と意見交換をすることができ、とても参考になった。行政の立場として吸収したい
- 心の中まで入っていくのでうまく聞き出すためにはやさしく接触していくのがいいのかな
- 現場での大変さが大きすぎる。スタッフのまとまりが大事とわかる
- どのグループからもたくさんの意見発表があり参考になった。先生がその都度補足コメントを入れてくれて分かりやすかった
- 避難者の立場に立って寄り添うことが大事だと思った
- 初めて会った人たちとグループで課題に向けて色々前向きに話し合うことができた、避難所もコミュニケーションがとても重要
- 自分たちで考え、その上でほかの方の意見を聞いたことで違う視点での発見ができた
- 大枠の中での話し合いなので、課題の範囲やまとめ方がなかなか把握できず難しかった。結果的にはいろいろな視点で考え、発表したものを聞くことができたので参考になった。ワークでも人の話を聞く難しさ話をする難しさも知ることができ勉強になった
- ケースワークで話し合いができたこと。実際の被災地、避難所生活を支援していくイメージを持ちながら研修ができた
- 手厚い支援と限られたリソースでの支援のバランスをどう取っていくか、難しいと感じた
- 住民同士と寄り添い支援が平時からつくれたら良いかなと感じた
- 「ありがとうと感謝しすぎることが後々ストレスになる」という視点が自分にはなかったので知見を広げることが必要だと感じた
- 何気ない会話で相手の心を開くことが出来るということが印象に残った
- 自分が役割をやるという意識でなく、その中の1人であるくらいの意識で携わる気持ちが大事
- リーダー/サポーターというような肩書きのある人間がいるとその人にどうしても頼ってしまう部分があるように感じた。一人一役というように、避難所にいる全員に役割があると平等に仕事を回すことが出来るのではないか
- その場の声かけ、寄り添うことの形の多様性が大事だと思った
- ワークのメンバーの専門性と非専門性が程よく混ざりあったのが良かった(どっちかだめだと厳しい)グループ内共有が手数に比べて忙しかった
- 受講生皆さんが良く理解できていたのか。私は70%位の理解度である
- 被災者をAとBで選んで話し合うのをもう少し、妊婦さんや外国人を選択枠に入れて様々な意見を聞きたかった。AとBが似ているので同じような意見しか出なかった
- 自己紹介で話すことが多いので時間が足りない。講義に対する質疑が欲しい
- サインペンがもっとあるとよかった。ポストイットの形がいくつか別の形があるとよかった

• 矢掛町

- 参加地区がバラバラに組まれていて、避難所での連携という点でよかった。地域ごとの課題を理解している、同地区の人たちが集まるとより具体的に自分事として話せたのではないか
- 防災士など様々な立場の方々の意見や考えを聞くことができた
- 参加者がお互いを知り、避難所生活の気付きを知る機会になったと思う。PFA の LOOK、LISTEN、LINK に沿っており理解しやすい
- 声かけの難しさを考えさせられた。チームとして”つなぐ”ことの大切さを感じた
- 今日のグループメンバーと協力して運営できたらより良い運営ができるのではと本当に思った
- 細やかな気配り、想像をされているグループあり、考えさせられた
- グループ内での取り上げ話し合いながら自分の気づかないことを確認することができた
- いざ長期に渡っての避難所運営の困難さと現実にはできるのか不安
- 他人によりそうことの重要性和困ってるアピールができない人の気持ちを聞き出すこと
- 全般的には変化に気づく事、寄り添い取り組み相談が対応である
- 参加者が気持ちの寄り添うことの理解具合に驚いた
- 一つの事例からもさまざまな問題点が把握できる事、事例発表から他の人（グループ）の多様な意見視点を学ぶことができた
- 被災者の気持ちになって考える事、気づく事が多くあった
- 被災者の心情や状況の理解はオンデマンドでも視聴したが実際の講義で様々な人の意見を聞くことができ参考になった
- 表面の言葉の奥に気づく事が重要
- 話し合いの中で、災害弱者をつくらない、相手の気持ちに寄り添うことを感じた
- 気づかなかったことも、仲間が複数いれば気づく事ができる。仲間が大切だと感じた
- 想像力に欠けていたと反省しています。もっと現場の状況を想像して対策を考えたい
- どちらの内容も実際にあったことだという重さ、グループで意見を出し合うことで考えが深まっていたように思う
- それぞれ班の様々な考え方を聞くことができ、自分の引き出しが増えた
- 被災者の心のケアについていろいろな意見が聞けて良かった
- 自分たちの班で出なかった気付きを他の班から聞くことができた。避難所の運営には正解がないと言われていたが最適解を求めて深く考える必要があると感じた
- 見落としていた点が多くあったことが理解出来た
- コミュニケーションの重要性、まずは近親者、地区の心の任せられる人との関わりであろう
- 演習の発表を聞くと、色々な考えがありすごいと思った。もっとこの時間がゆっくりできるとよかった
- ワークショップの時間をふやすことで自分の理解が深まる
- グループ発表が多い。グループ内での話し合いの時間をもう少しとって欲しい。話し合いの終了時刻を画面に提示してほしい
- チーム内で話し合うことが楽しかった。時間が足りない

Q3. その他気になったことなど

前橋市

- 実際にボランティア活動をされている方のいるグループだったので良いお話も聞けて良かった
- 「傾聴」を大切にしていこうと思う
- 今回の研修が地元に戻っていかせるか心配だ
- 被災者の立場になると心が難しいと思った。復習になった
- 性的マイノリティ、ジェンダーの違いかわらないので対応もわからない
- 今日の参加者は別として、県民の防災への意識が低いと思う
- 時間予定通りに進行していただけてありがたかった。2日目3日目のプログラム内容をもう少し教えてほしい
- 換気が必要だと思うのですが会場がとても寒かった
- グループの周りに役員関係の人がまるで監視するように配置されていた。もう少し全体的にリラックス出来るようにしてほしい。
- 課題に対し、多くの人の意見がきけてためになった
- 地元や地域が主となって動いていくためにとても大切な研修だと思った。
- 相手を思い相手の思いを引き出すことの大切さを感じた
- ありがとうございます。次回（来週）が楽しみ
- 避難所を運営するリーダー・サポーターの重要性。その方々が平常時から顔の見える関係作りが大切
- 受講生が前向きに取り組めるよう配慮しながらのファシリテートは素晴らし
- 模造紙、付箋の使い方、書き方は話し合いに入る前に説明した方がいい
- 毛布を腰に巻いていた女性がおり、会場が少し寒かったと思った
- 実際に大規模な災害が発生したら我々は具体的にどのようなことをどのような流れですればいいのか知りたい
- 長中期の避難の訓練は初めてで良かった
- 適切な支援は一般的論化するのではなく、個々の事例の積み上げの中からチョイスする必要があると思った
- ワークシートや付箋紙に書く際のサインペンは一回り細い方が良い気がする
- DWAT という立場、避難所サポーターという立場、専門職チームの立場、支援のバリエーションが増えると思うので、色々な立場の人の発表が聞けると有意義と思った
- 周囲をオブザーバーさんが取り囲む形式、緊張感もあり、気にもなり、善し悪しだと感じた
- グループの構成メンバーが多様であり専門的な知識、避難所での経験談を聞くことができ良かった。時間に限りがあるので、仕方がないが、皆さんの活動をもっと聞きたかった。次回以降が、楽しみでもある
- 本研修が、どのレベルの人を養成しようとしているのかが気になった。避難所の運営や各避難者が抱える課題解決を担う上級レベルか、避難者のよき隣人、知人の立場で、その人に寄り添い、課題に気づき発見し、専門職等につなぐレベルか。オンデマンド動画を含め、要配慮者像等難しい要素もあり、負担に感じる人もいるかもしれない
-

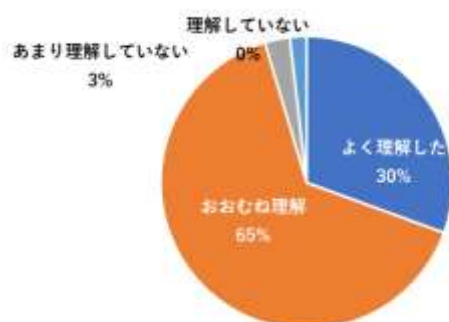
• 矢掛町

- 少しスクリーンは見にくかったが、資料があつてよかった。最初ということでなのか前半に挨拶に挨拶が続いたのが少し間延びした印象を持った
- 多様な主体がいるということにより理解するために子育て世代や障害者、ケアマネ、中高生、外国人の参加ができるような仕組みができあがるといいなと感じた
- 長時間だったが、適度な休憩をはさんで集中して参加することができた。避難生活支援においては、日常生活においても大切な思いやりや気配りにプラスして、心の柔軟さや広い視野を持つことが必要だと感じた
- 後ろでずっと私語をしているスタッフがいらした。
- 災害関連死に関しておおむね理解した
- 実際の所その場面に遭遇した時自分は行動できるのかが正直分からない
- 若い人や女性の参加が少ないことが残念
- とても有意義な時間だった。時間も半日というのが適切だった。たくさんの方たちの考えや思いを聞いたのは貴重な機会だった
- 避難者支援にかかわったことがまったくなくあまり理解できなかった。基礎的なお話をもっとしていただきたい
- 2週間、3週間後の避難生活のイメージをもう少し説明があつたら想像がさらにふくらむ。常に最悪を想定して考えていきたい
- もっともっと被災者一人ひとりのことを思い、想像力を働かせたり自尊心を大切にしていくようにする
- 集まると同じ意志を持って必要性を感じるが、地方でその熱量をキープできるか心配
- いつ感染、いつ体調不良かも安全衛生が大切であること
- 人とのつながり、日ごろからコミュニケーション作りを大切にすることが必要であると感じた
- 避難所の役は男女でやる必要があるが、今回の出席者は男が多い。女性も増やす必要がある
- グループ外にいた方にもグループに入ってもらいたかった。町外の方とお話しできたのがよかった
- 地域に持ち帰りできる事から始めようと思った
- 災害関連死への理解があまり進んでいない。これへの人の意識を高める必要性
- 自己に気づき過去の自分を変えようとする努力、能力は重要課題であろう
- 私には無理かも。自信が少しなくなった
- 演習が大切である、時間の配分をよろしく
- ワークショップの時間や具体的な実施例の時間を増やしてほしい

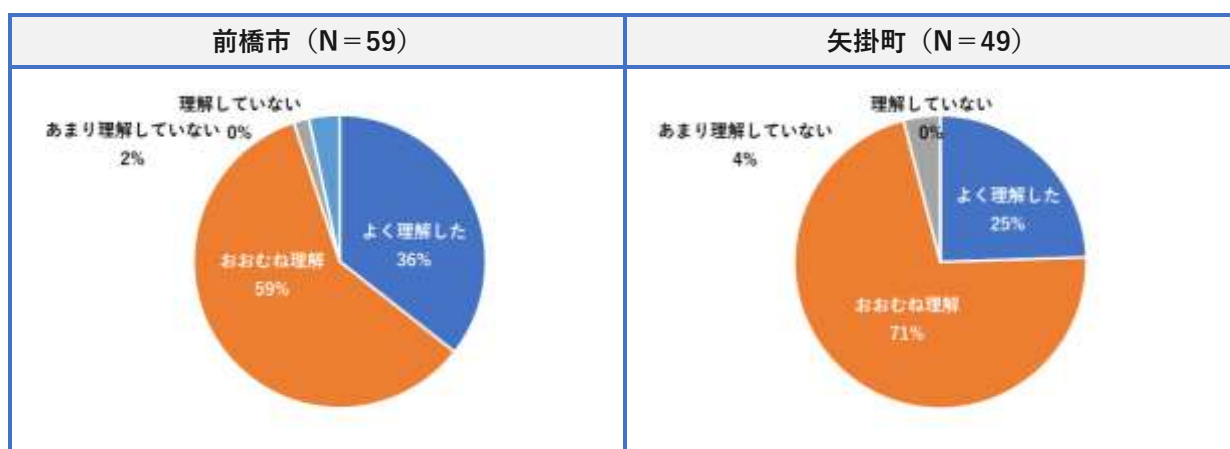
研修2日目 アンケート

Q1. 2日目の全体の内容の理解度、長さ

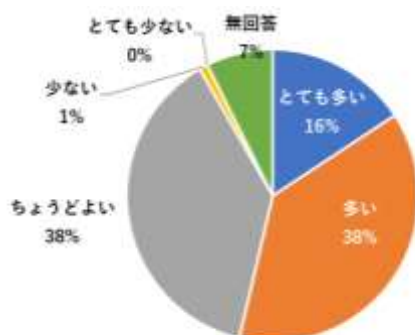
○理解度 (N=108)



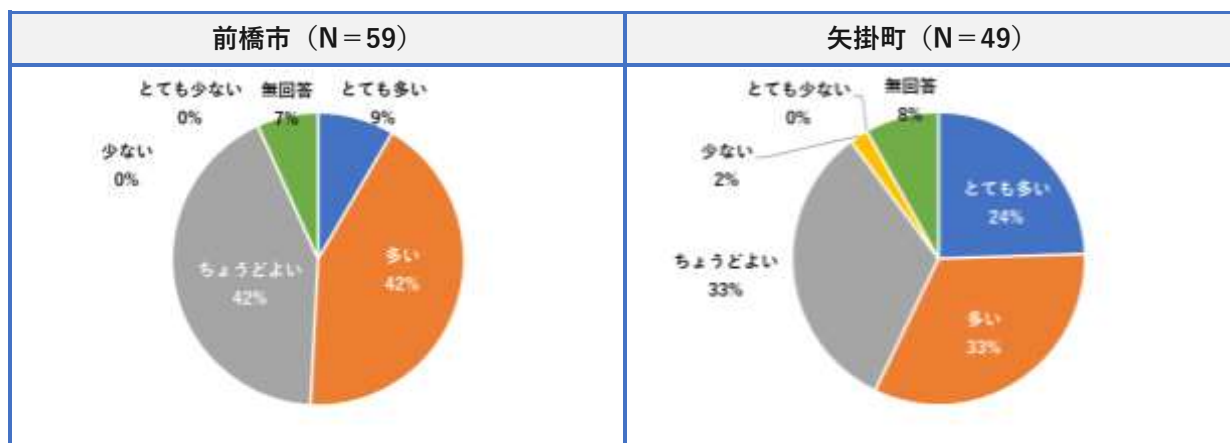
約95%が「理解した」と回答



○情報量/長さ (N=108)



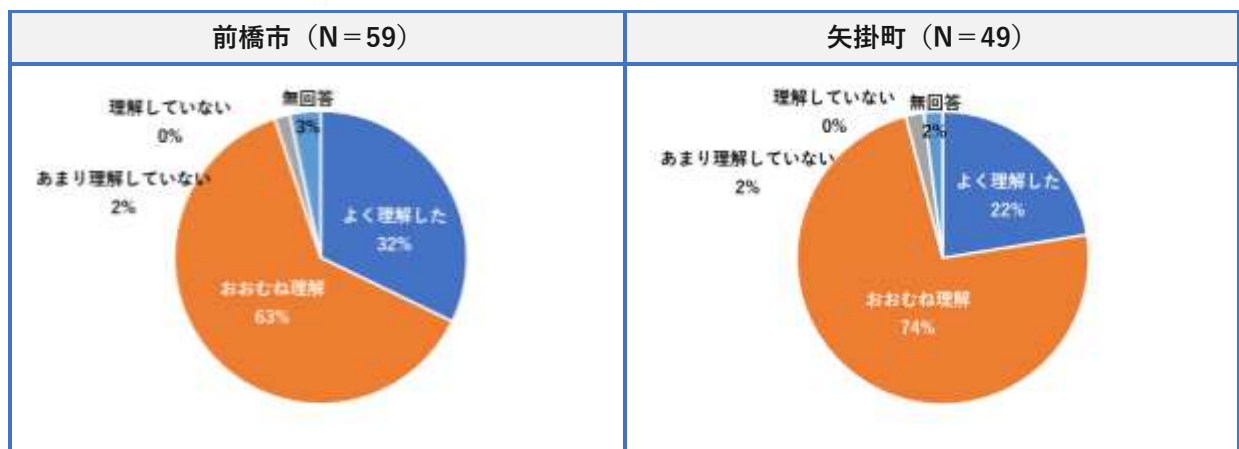
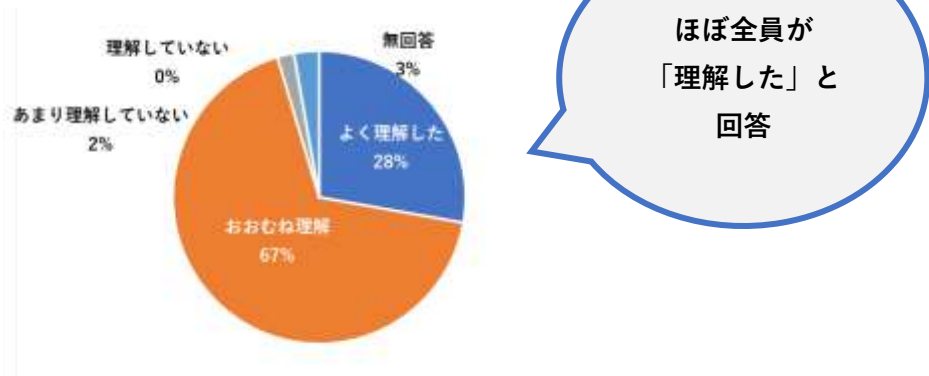
約6割が「多い」と回答



Q2. プログラム項目それぞれの満足度、印象に残ったこと

基礎講座

○理解度 (N=108)



○印象に残ったこと

前橋市

- テキストを復習できてわかりやすかったが、演習で自分の気づきに問題があり反省した
- 演習に入る前の準備として良かった。テキストの復習にもなったと思う
- 避難所はいろいろな立場の人がいるので多くへの配慮が必要。支援者だけでなく利用者も一緒に考えて運営することは大切
- 大規模災害では半年以上避難生活が続くこともある。時間の経過で心と体は変わっていく。その時々に合わせて支援をする
- 運営のポイントがわかりやすく写真もあってわかりやすかった
- 改善ポイントは見過ごそうと思えば見過ごせる。なるべく様々な場所や人に目をやり小さい事でも気づけると良い
- わかっているつもりだったが、今回のように図・絵などで解説があるとわかりやすい
- 写真などが多くありとても分かりやすかった
- 写真等で実際のイメージをつかめた
- 実際の現場の写真で課題が確認できた
- 各スペースに写真もあり分かりやすかった。専門職の方だけでなく避難者している方も参加して運絵をしていくことが大事でやり方も色々あることを知った
- ポイントなど分かりやすくしてくれたので理解した

- 避難所運営のポイントで、課題解決のための実行力や一人ひとりに合わせた情報提供のあり方
- 「積極的に今から避難所運営をできる人を増やしていく」この言葉は今回の研修に重なった
- 避難所の開設時はルール等決まらず難しいものがる
- 実際には災害内容、時期、避難者数で状況が変わることの大変さを実感した
- いざ自分の身に起きた時どのように行動できるか心配
- 基本的な機能ポイント等は理解した。避難所での映像等があればよかった
- 避難所の役割（それぞれのスペース）などについて注意点や必要なことなどが分かった
- 避難所には多種多様な人がいてそれぞれに気づき配慮が大切
- 長中期の避難生活は避難所が生活の場となること
- 避難所にはいろいろな人がいることを忘れてはいけない
- 避難に無知であったことを理解できた
- 避難所は生活の場であり、避難所から仕事に行ったり共有スペースがあったりと講座を受ける前では気づかなかった事も理解できた
- 避難所運営で配慮することも多いのでどうすればうまく運営ができるのか課題を認識できた
- 避難所は健全な心を取り戻す場であり、その後の復興への活力や生活再建へのステップである
- 避難が長期化した場合は、避難所は生活の場になるので、生活環境として整える必要がある
- 要所要所の理解を必要とすることは解ったつもりだが横のつながりの点が解りづらい
- 避難所として理想的と思われる例や、あまり望ましくない例なども提示されると、より理解が深まるように感じた

矢掛町

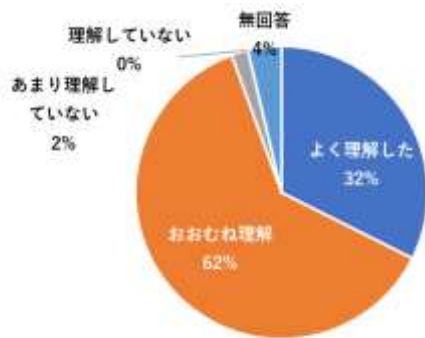
- 実際にはもっと複雑であるが、意見を出し合ってより良い生活を目指していく必要と感じた
- 中長期の避難所運営をするには、とくに想像力を働かせることが大切だと感じた
- 説明が詳しく、ワークショップに入りやすかった
- 生活環境の整備の各項目で、実際の事例の写真をたくさん紹介されていて、報道以外ではなかなか目にする機会が無いので現場の大変さが印象に残った
- 避難所の機能の一つとして、地域の支援拠点としての役割がコロナ禍の今、特に求められると感じるので、実際の避難所運営の際に細やかな対応ができると良いと感じた
- リーダー/サポーターとしての押しつけではなく、被災者中心の支援を行うことを何度か呼びかけていたこと
- 映像として視覚的に入ってきたので理解しやすかった
- 気づきと課題解決力、災害の予想がつかない時代なので、大切だと思った
- 実際の体験や事例を提示していただいた説明はとても勉強になる
- 実際にはこんな状況だという内容が知れることが有難い
- 中長期の視点で考える必要があることは、前回の講義で聞いていたが、今日改めて感じた
- 避難所は、生活の場であり、それぞれの暮らしがあるので、個々にあわせた対応をすることで、他の人にとってもよい効果が生まれると思う。個々が、様々な課題をもっているの、それに少しでも寄りそえるようにしたいと感じた
- 自分たちが、担い手であると思える用に、皆の力をもらえば良い
- よく、それぞれの立場(自治体、被災者、ボランティア、施設管理者)で主体の押し付け合いが起

きるが、役割どころを互いに理解し、みんな主体とすることが大切だと感じた

- 中長期の避難生活では、暮らしの場になるよう機能を整えて、被災者の自尊心を守り、生活の質をあげていく
- 実際の避難所での色々な問題や課題を聞けることができて良かった
- 避難所運営の流れは、話を聞き、頭の中では理解できた。(実際の立場になるとどうかと不安もよぎるが)
- 避難所の運営がある中で、様々な生活リズムをもつ被災者と、向き合う事の難しさを感じた
- 被災者、自治体、ボランティアそれぞれが相談しあえる関係が重要であると実感した
- 時間の経過により、運営の仕方は変わってくることをあらためて理解した
- 中長期の避難所に必要な要素について被災者によりそい被災者の心を守り、意欲を呼び起こすことにつなげることは大変だと感じた
- 避難所の機能として、避難所の尊厳を守る事は大事だと感じた
- 傾ける耳と真摯に受け止め、一緒に考える姿勢を大切にすることこの研修のコンセプト良い
- 基礎講座としての情報量、内容はまずまずと思った

ワークショップ

○理解度 (N=108)



約95%が「理解した」と回答

前橋市 (N=59)	矢掛町 (N=49)																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	41%	おおむね理解	52%	あまり理解していない	2%	理解していない	0%	無回答	5%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	22%	おおむね理解	74%	あまり理解していない	2%	理解していない	0%	無回答	2%
理解度	割合																								
よく理解した	41%																								
おおむね理解	52%																								
あまり理解していない	2%																								
理解していない	0%																								
無回答	5%																								
理解度	割合																								
よく理解した	22%																								
おおむね理解	74%																								
あまり理解していない	2%																								
理解していない	0%																								
無回答	2%																								

○印象に残ったこと

前橋市

- 基礎講義で学んだ事を活かしながら、大いに学びある演習になった
- 受講生の方々が知恵を出し合って取り組まれ勉強になるアイデアをたくさん見させていただきました。所属米に視点が異なる意見も参考になった
- パーフェクトの正解はない。もし自分だったらそう考えるかをチームで情報共有してよりよい生活環境を整えていくこと
- 今まで見えていなかったことが実演することで見えてきた。避難者の状態を読み取ることと同じ目線で話して問題を理解することが大切とわかった
- 避難所の課題を見つけ出し工夫するのが防災に意欲的な人たちばかりなので工夫が少ないものでも色々考えられていてとても勉強になった
- 自分には思いつかないような発想やアイデアが出るのもグループで話し合えた結果かと思った
- 実際の現場を作ったため理解度が上がった
- 細かな点を聞かせてもらい知らない世界を知ったと思う
- 普段ならよく考えれば思いつくことでも避難所となると抜けてしまうことがあった。グループで協力できたことはとても励みとなった
- 非常口の位置等周りの状況を冷静に見れるようにしたい
- 机上訓練とはちがいで、実際にものを使ったりあるもので工夫したりする体験は貴重だった。ちがう意見をまとめたり、尊重したり、チームで動くことの大切さも学んだ
- 一人の考えではなく、多人数で出すことでいろいろな意見が聞けて良かった

- 座学で学んだ事を頭で理解していたが、演習で上手く活かせなかった。また自分とは違った視点で見られている方もいていい経験になった
- 日本語がわからない方、要配慮者への配慮が必要であったこと。ダンボールが様々な所で活用できるので備蓄に必要と感じた
- それぞれのコースの対応は参考になり意見を出すことが大事であった。色々な視点で見ることが重要なのかな
- 多くの視点・意見・アイデアが環境に与えること。避難者の目線に合わせるはずが忘れがちになると実感した
- イメージ（予想など）意見など話し合っよよかった
- 基本線は「人」が行うことであって「人」を育ててゆくことが大切と思った
- 実際の経験がないのでこのような体験型は参考になった
- 生活動線、スペースの取り方で快適性や利便性が格段に変わることがわかった
- 設定が狭い場所ながら細かく作れていて、演出も入りリアルな実習ができよく理解できた
- 実際に改善活動を行ってみて考えるだけと行動してみるのは違うなど感じた。避難所においては視覚での情報が大切なのだと思った
- 動線を意識した配置で的確に情報を入手する工夫。管理するシステムづくりによって避難生活中の負担を軽くできる
- 同じ場所を見てもそれぞれ見る視点が違うので他の人の意見等を聞くことができて良かった
- 細かいところまでの目配りが必要・大切、衛生面特に注意
- 各グループ皆さんが問題点の洗い出しをして素晴らしいまとめ方だった
- 実際の避難所を体験でき勉強になった
- 各グループがきめ細やかなアイデア、工夫をされていて驚いた。講師の方避難者役の方からの話もとても参考になった
- 各班の発表を聞いていて最初の見学で自分は気づけなかったことについて改善を行ったグループも多くもっと注意して見ないといけないと反省した
- 避難の設備一見問題なさそうでも不十分な部分がたくさんあることを実感した
- 様々な立場の参加者がいて多方面から意見の交換ができ、グループ演習ができた。改めて人の意見・知識の重要性を感じ、それをまとめ、カタチにする難しさも感じた
- 避難所の状況について、今までよりも具体的にイメージすることができた
- 生活環境の整備は、避難所の動線や物資状況、避難者の様子など、様々な視点で考えていかなければならないことを改めて実感した
- 少ない予備物資をとりにいく際に、自分が担当した場所だけでしか考えず物資を集めたため、他の場所で使ったほうが有用であったことを発表見ながら感じた
- 全ての場所において、ルールを決めたり動線を確保したり様々な工夫が必要だということ
- 参加者の方々がどうやったら快適に、わかりやすくレイアウト変更をされていたので、実践で役に立つ演習だったと思った
- 固定観念を持たずに考えて行動する事の大切さを、演習を通じて知らされた
- 各チームに発表しサポーターが説明した後できれば質問コーナーがあると良かった
- 時間的にグループの発表がもう少し長めが良かったか
- 内容が多くすべて理解実行することに不安である

矢掛町

- 実際の例を挙げて説明いただいたので、とてもイメージしやすく理解できた。
- コミュニケーションが大切である事を実感した
- 実際に困ったことや経験者の話を聴きながらだと理解が深まった
- 実際に作られた避難所の状況から改善点を見つけて進めていくやり方がわかりやくかった
- アイデアや気付きがいっぱい出た
- 実際は問題点が次々と出るのだろうという事が容易に想像でき、避難所運営の難しさを感じた
- 参加者の皆さんがそれぞれの視点で細かな点まで改善を行なっていて感心した
- 「演習の目的・ねらい」の部分で、「地域の文化」に配慮するという視点が非常に重要だと思う
- 一人ひとりのニーズに応えることだけでなく、地域が持っている背景にも配慮できると、より良く円滑に支援ができるのではないかと思った
- 「気づく」ためには、単に講義形式の研修を受けるだけでなく、今回のように実際に見て、自分たちで改善する過程で養われるものだと感じた
- 改善後の共有の時間に、講師二人が、良い点だけでなく、実災害を踏まえた更なる改善ポイントまで伝えてくださっていたのが良かった
- 実際の避難所場面を設定し、具体的な対応を検討した演習は非常に有効だと感じた
- 担当の演習をグループで一緒に考えたこと、様々な視点から考えを聞くことができた。他のグループの発表も細かな配慮と改善策がアイデアとして示され、学ぶことが多かった
- 色々な立場の方の知識を知ることができ勉強になった。ちょっとした工夫で、よりよい生き方に少しでも改善することで笑顔もでてくると思う
- 実際にスペースを作られグループ事に検討する方法は非常に良かった
- 避難所における女性の必要性を痛感した
- もっと難しいと思っていた避難所設営、運営が身近に感じた
- その方の状況その場所のあり方等を考慮した演習がなされていた。細かな配慮をしているグループもあり参考にさせていただく
- 目線の使いわけ(運営者目線で判断する場合の使いわけ)が難しい
- 実践的に見直しするワークショップは初めてで、避難所運営についてより深掘りできた
- 被災者の立場に立って、こまやかな配慮がいると思った
- 自分達で演習することの大切さや避難所で限られた物の中で工夫をすることが重要
- 演習を行うことにより、更に避難所で大切なところ、気づきなど大変勉強になった
- 今後とも私も回りの人と話しながら、考えていきたい
- 色々な現場を再現して実際に改善をすることは、理解が深まり良かった
- グループ内の話し合いで、多様な意見やアイデアを知ることができた
- グループの中にはいろいろな知識と技術を持った方がいる
- 実際に、体感して、次善的を、自分ひとりならむずかしいが、他の協力者がいれば実行出来る
- 各場所に分かれての発表があり、とても細やかな気配を必要としている事がわかった。一人では気付けない事も多い中、協力しあって解決することの大切さがよくわかった
- 自分では、考えつかなかった、課題と生活環境の整備が学習できてよかった
- 被災者ファーストで声かけ、気配りが一番だと思った
- 被災者の立場に立って考える事の難しさを再度実感した

- 演習の環境がリアルな被災地の状況に近いとの事で、課題の多さを感じた
- 各セッションを回った時には気付かなかったことでも、グループでの話し合い各グループの発表を聞いて、あらためて気付かされる点が多かったこと、やはりいろんな視点を話しあうことの大切さを痛感した
- いろんな場所生活につながる場に対して被災者の立場にたって気づくことが大事だと感じたが、十分な気づく力が足りないことを痛感。こういう実践を重ねながら、力をつけていきたい
- 食事の大切さや、食事中でのコミュニケーションの大切を知った
- 改善点などを話し合え色々な意見が聞けてよかった
- 演習することが1人より2人で、想像以上に力が発揮できたと思う
- 人によっては内容が濃すぎるためキャパオーバーする人もいるのではないか
- 情報量が多すぎて、消化不良気味
- もっと演習のペースをゆっくりとしっかりと時間をかけて行いたい
- 8ヶ所に別れたが、半日2ヶ所くらいでもよいぐらいかと思った

Q3. その他気になったことなど

前橋市

- とても意義のある研修で、参加者の皆さんも多くのアイデアを出していた。時間はやや短くしてもよいと思った
- 他グループの話を聞きながらたくさんの気づき、視点に勉強になった
- 多くの方が熱心に研修に参加していて嬉しかった。他地域でもこの研修が増えるといい
- グループで知識を出して問題解決することはとても良い
- 生活環境の改善のワークについては各班が虫の目になりやすいので各班代表者による（受付・物資・ベッド等）、方針の共有等の島の目視点ワークがあってもよいと感じた
- グループ内での赤十字関係の話しを聞いたのが参考になった。自治会でも講習を考えてみたい
- 実践的でとても新しい研修で実のあるものだった
- 障害者としてどうやって対応するか知りたい
- 記録者の位置づけが気になっている。社協も倉庫の設置等が環境的なこともあり大変らしいことを聞くので地域の中でやはり「防災」を感じて欲しいと思う
- 疲労感はあるが現実を考えるとどのように休息をとるかが課題かと思った
- 避難中の介護サービスの実施、中長期化してきたときの避難所と介護保険サービス、障害者支援サービス事業所とが連携をとって支援体制を充足させていくといいと感じた
- 避難所運営には細やかな気配りが発揮されるのを実感した
- 多勢の人達が集まるといろいろなアイデアが生まれることを実感した
- グループで様々な意見を出して、一人一人が意識を高く持って課題に取り組むことが出来た
- 施設管理者役の人がいたらもっとリアルな演習になったと思うが、情報量が多すぎる
- 一日がかりの研修は体力的にもかなり負担になっている。本日、雪で足元が悪く寒かったので、外靴用の袋とカイロの用意は受講生に好評だった
- 時間が少々長すぎる。せめて午前二時間午後二時間くらいが理想
- できればほかのスペースの人から気づいた事や質問を受けて欲しかった

- 避難者のための避難所である事を忘れずに。解説を聞けるので理解が深まる。感染予防に気を付けて欲しい。人口の検温等、換気の徹底
- ハンドマイクの周波数が高く、高音部が聴き取り難かった。大会面で多数の人への伝達のむずかしさが有ると思うがよろしく願いたい→研修場所・人員数等を考慮願いたい
- 実際に避難所の運営がスムーズにできるか不安
- 今回改善活動をしたところ張り紙や注意書きなど文字等による情報が多いと感じた。視覚障害や文字を認識しにくい方への配慮などの話も聞きたいと思った
- 一緒のグループの比較的高齢の受講者の方が、講師の女性の声質が高くて耳に入らずずっと何を言っているか分からないとおっしゃっていた。この講座の受講者も比較的高齢の方が多いので、そういった方へゆっくり話したり落ち着いて話したりする配慮もあるといい
- 研修後半、スペースの改善点を解説している間、受講生に疲れが見えたのが気になった。

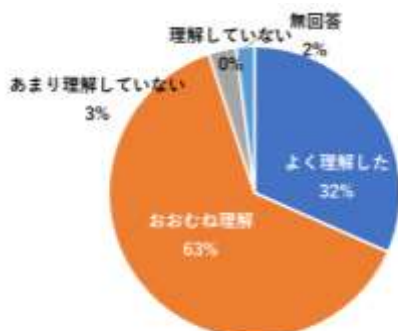
矢掛町

- 演技されていた方の気持ちも聞くことができ良かった
- 長時間ということで不安もあったが、内容の濃い充実した研修であったという間の一日だった
- 避難所経営だけでなく、日頃の活動に共通したものが多い事が分かり、とても役立った
- 参加する前は、時間がとても長いので間延びすると思ったが、実際は時間が足りないくらい
- 「自分たちで考える経験」が発災時の避難所運営にいきてくるとし、「参画する余地がある」ことも、より良い環境に改善し、保っていく意識を生むことに繋がると感じた
- 住民が避難所運営を体験しておく、住民主体の避難所運営が行いやすくなると思った
- 自分達のグループでもう少し時間をとってもらって互いに話し合えたらと思った
- 今回は地元の方が多いですが、多職種で参加すればもっとよいものになると思う
- 避難者はお客さんでなく、自分たちで避難所を運営して行かねばならない
- 避難所生活1ヶ月たって、かなり生活も安定した頃の問題が今日の研修内容であるとすればこれまでに避難所運営の態勢づくりがどうであったか疑問に思った。
- 最終的には、実際、避難している施設を訪問して見学することが必要であると痛感した
- 今日の研修は、より具体的になり、イメージしやすく、自分がもし、何らかの災害で支援することができるなら、今回のことは、忘れることなく、役立てたいと思った
- 被災者側と支援側どちらも理解できたように思った
- このような中長期の避難になると、被災者の意識が大切。主体となって"参画"、風とおしのよい避難所グッド・コミュニケーション
- 被災者がお互いに許しあえる関係を築く大切さ
- 避難場所である体育館などは、本来、人が生活する場所として設計はされていないため、どこまで生活環境の整備の対応ができるか、今から対応できる準備をしていきたい
- この講習、演習形態を前もってある程度把握していればある程度の対応、考え方ができたと思う。現実味に欠けていたように思う。実際の対応は違ったと思う。
- もっと時間をかけて行ってもよいと思う
- たくさんの知識、情報を教え込みたいという主催者側の気持ちも分かるが、受講者に困難な状況を体験する時間を十分に確保していただきたい。あまりにも一方的な時間が多いと感じた
- 現場説明の時、言葉が聞きとりにくかった

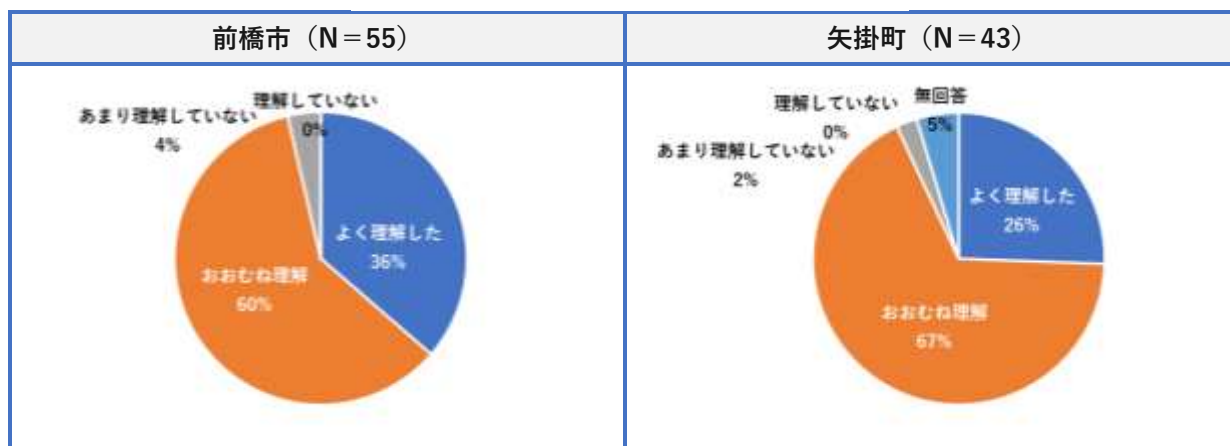
研修3日目 アンケート

Q1. 3日目の全体の内容の理解度、長さ

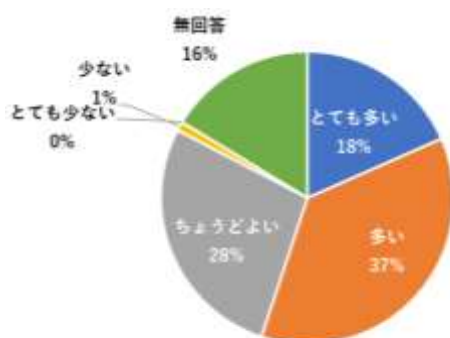
○理解度 (N=98)



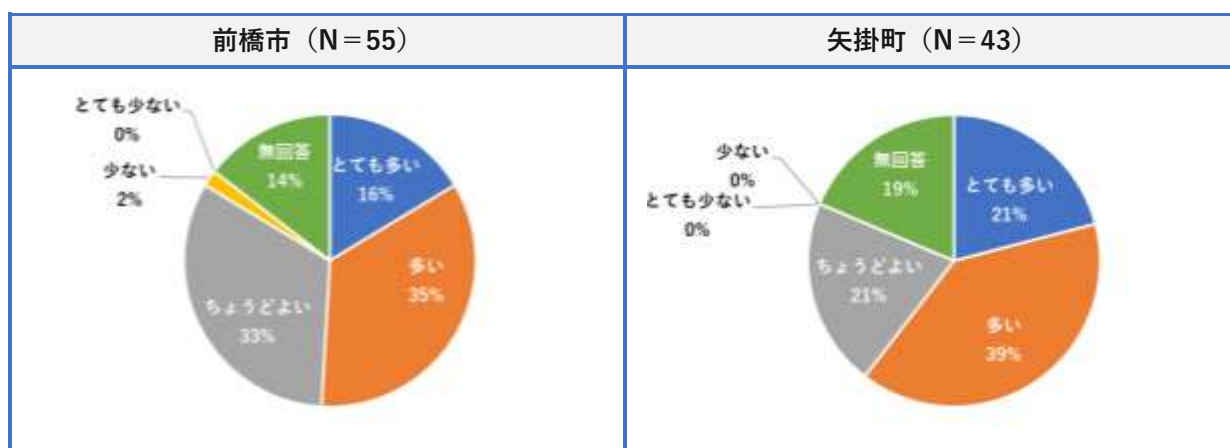
約95%が「理解した」と回答



○情報量/長さ (N=98)



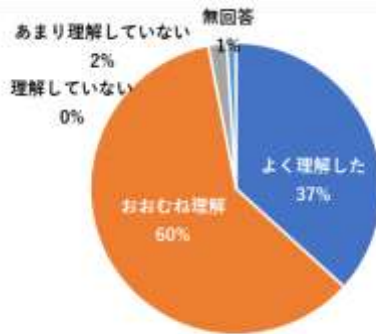
約6割が「多い」と回答



Q2. プログラム項目それぞれの満足度、印象に残ったこと

基礎講座1 対人コミュニケーション

○理解度 (N=98)



ほぼ全員が「理解した」と回答

前橋市 (N=62)	矢掛町 (N=43)																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	40%	おおむね理解	56%	あまり理解していない	4%	理解していない	0%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	33%	おおむね理解	65%	あまり理解していない	0%	理解していない	0%	無回答	2%
理解度	割合																						
よく理解した	40%																						
おおむね理解	56%																						
あまり理解していない	4%																						
理解していない	0%																						
理解度	割合																						
よく理解した	33%																						
おおむね理解	65%																						
あまり理解していない	0%																						
理解していない	0%																						
無回答	2%																						

○印象に残ったこと

前橋市

- ・ コミュニケーションには一定のテクニックが必要ということ
- ・ 被災者の心に寄り添う事のむずかしさとコミュニケーションの取り方
- ・ 相手の気持ちに配慮した言葉を選んで話をするなど気を遣う必要性がわかった
- ・ 被災者の気持ちを聴くためのポイント
- ・ まずはテクニックより健康に次の生活へと願う気持ちが大事という事
- ・ 同じ目線で対応すること
- ・ 生活再建に向けて避難所の中ではこちよく過ごしてほしい
- ・ 人によって違う事を理解した
- ・ コミュニケーションの取り方の基本事項
- ・ 五感を使って表現する、生活再建を願う気持ちが何より大切
- ・ 本日は対人間という部分の一番重要な部分だったのだと思った
- ・ コミュニケーションには一定のテクニックが必要ということの取り方、男女年齢関係なく平常心で対応出来るといい
- ・ コミュニケーションに必要なスキルも方法の一つとして学ぶことができたのは良かった
- ・ 相手のふところに飛び込むこと
- ・ 共感・受容話を聞くことの難しい

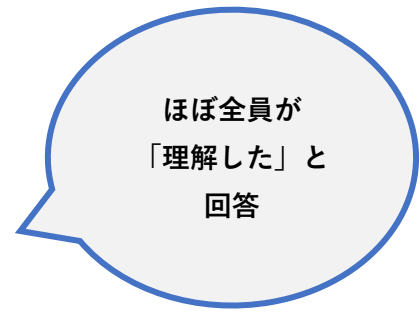
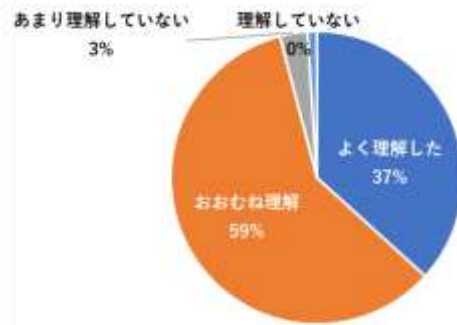
- 同じ言葉を理解してもイメージはそれぞれ違う
- コミュニケーションのテクニック、聴くためのポイントなどわかりやすく普段から使ってみようと思った
- 一人で判断せず関係者とよく協議する
- ポイントなど説明してよかった
- 対人関係のノウハウが理解できた
- 気持ちを聴くためのポイントやコミュニケーションテクニック
- 被災者への声かけ等勉強ができた
- 話を聴く、理解することの大切さ改めて理解した。ポイントを忘れないようにしたい
- 保健師さんがどうやってラウンドするのか？どんなことを聞いているのか？そんな具体例も知れると良かった
- コミュニケーションには言葉だけではなく非言語や准言語があるので、それがとても大切だということが改めて実感した
- 被災者、避難者に寄り添うこと、少し実感できた
- まだまだ力が及ばないと思った
- 助けてと言える避難所のお手伝いが出来ればと思った

矢掛町

- コミュニケーションの基本や技術、工夫例など、災害時だけではなく普段の生活にも役に立つ内容だった
- いろいろな考えや、見方があった。思いを同じにする仲間がいて、安心した
- 被災者の気持ちを聴くための技術や工夫が、自分が思うよりたくさん考えられること。そしてそれはあくまで一例であること
- 被災者に興味（という言い方は適切ではないかもしれませんが）を持って接することで、相手を知っていき円滑なコミュニケーションに少し近づけるかなと感じた
- 話を聞くだけだと、簡単なようだが、実際は大変
- 気持ちや想いをどのような言葉で伝えるか、また傾聴力、共感力も大切だとあらためて感じた
- 被災者の気持ちを聴くための技術や工夫例がわかりやすく説明された
- 人の目に合わせたコミュニケーションを学べた
- 職業上、対人援助の基本姿勢は十分理解しているが、一番むずかしいスキル
- たくさんの人たちがベクトルをそろえて活動するためには情報共有認識共有、合意形成が不可欠だと思った
- わかり易い説明で、私なりにかみくだいて頭の中に取り入れることができた。
- コミュニケーションテクニックが苦手なので、自分の力をつけていきたい
- 同じ事項でも人それぞれの理解があり、共有化の仕方が重要
- 相手との距離感を考えていく大切さ
- 避難所の実態と被災者の接し方
- 対応する人間によっての声かけの仕方、タイミング、中身が考えさせられた

ワークショップ1 対人コミュニケーション

○理解度 (N=98)



前橋市 (N=55)	矢掛町 (N=43)																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>よく理解した</td> <td>38%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	あまり理解していない	2%	理解していない	0%	おおむね理解	58%	よく理解した	38%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>よく理解した</td> <td>35%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	あまり理解していない	5%	理解していない	0%	おおむね理解	60%	よく理解した	35%
理解度	割合																				
あまり理解していない	2%																				
理解していない	0%																				
おおむね理解	58%																				
よく理解した	38%																				
理解度	割合																				
あまり理解していない	5%																				
理解していない	0%																				
おおむね理解	60%																				
よく理解した	35%																				

○印象に残ったこと

前橋市

- ロールプレイを実施したことで参加者の皆さんがスキルアップしていたのかわかった
- 話を伺っている方の抱えている問題点など聞き出すのは簡単ではないことがわかった
- どの参加者も目線の高さに気を付けて聞き取りをしていたこと。実践的で良かった
- ロールプレイは実際にすることで身に着けたり気づいたりすることができた。気持ちを聴くことは難しい。その人の立場に立って考えること
- 助けたいお手伝いしたいという気持ちがあげすけになって感じたという意見が心に残り寄り添う事の大切さを考えた
- 言葉のかけ方で心を開いてくれたり、閉ざさせてしまうので声掛け難しい
- 人との接し方について改めて学ぶ機会となった
- 自分のクセを知る
- 被災者の方からのお話による困りごとの聞き取りは本人の立場になって、目線を合わせて話す
- 被災者として演じてみて運営側の困りごと引き出し方の大変さを知った
- 女性の視点はすばらしいと思った
- テクニックスキルも大切だが心を込める相手を思う態度・姿勢が重要という事
- 被災者の方の真にせまった演技にどう声掛けをしてよいのか言葉が詰まってしまった。一方的に聞いてしまいそうで日ごろ職場で子供たちに接するよう心掛けたい
- シーン別に道具なども活用しながらロールプレイをすることで被災者側支援者側それぞれの気持ちや困難さを知ることができて良かった

- 型にはまった掛け声ではなく世間話から入っていくほうが良い
- 聞くことのむずかしさがわかり聞く心を心掛けたい
- 一方的に訴えてくる人、何も訴えてこない人、様々な人への対応を考えていくことが難しい
- コミュニケーションのテクニックは心がけでは相手との繋がりを持ちづらいので最低限必要
- イメージ体感や実際に被災者になってみて気づいて今までわからなかった感情を持つことがすごく勉強になった
- 相手の意思を尊重した行動をする
- ロールプレイの体験がよかった
- 人に寄り添う言葉使いにとまどうことが多かった
- 実践でのむずかしさがよく理解できました
- 一言目をどういうあいさつで話そうか考えたこと
- 声かけ時がとても緊張する
- 感じ方考え方が皆それぞれのため一つのことでも多数の意見がることがわかった
- 気持ちを理解する。いろいろな人に対しての声かけがあることを知った
- 被災された方の気持ちを聞き出すことが難しいと感じた
- 実際の現場ではないのに緊張しほとんど出来なかった
- ニーズ調査の聞き取りの難しさ。聞き取る際によそよそしくなってしまう
- 話し方を少し変えるだけで、話しやすくなったり話しにくくなったりするのが印象的
- 相手がどのように感じるか、リラックスしてもらえるか、考え過ぎてしまうことが多かった

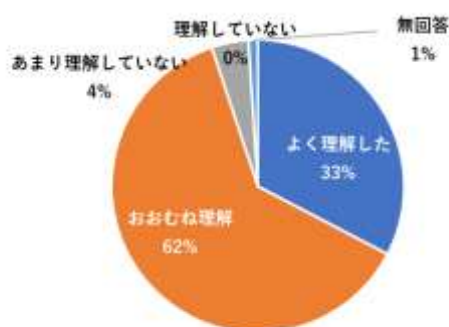
矢掛町

- 多様性を受け入れる感性
- やはり、困っている人とのコミュニケーションが難しい事
- どこまで踏み込むか、引き際はどこかを悩んだ
- 被災者役をしたが、被災者の立場になることでより理解が深まったように感じた
- リーダー/サポーター役をしたときに、被災者の置かれている状況やどんな声掛けをしたら失礼ではないかなど考えすぎて、言葉がほとんど出なかった。研修の中で気づけてよかった
- 例のコミュニケーションの取り方がとても楽しく取り組めた
- シミュレーションをする事で理解が深まった。ロールプレイをされた方が上手で、楽しみながら研修することができた
- 被災者の困りごと、悩みごとを聞き出すのは、難しいけどただ話をするだけでもいいのか
- 対象者、場面設定が具体的でとてもよい学びとなった。グループの方が専門性があるわけでもないのに、「わかるわかる」「そりゃそうだ」「そう思うのはあたりまえじゃ」「こりゃ、困ったことじゃな」と方言つかいながら一緒に困る姿勢が懐に入りやすくやさしいことに気づいた
- 被災者に対しての質問のし方についての難しい
- 初めて会う被災者の方への接し方、質問のやり方、とても難しかった
- どこまで深くたずねるかという程度が難しいと感じた。個人情報保護のカベがとても気になる。
- このワークはイヤだという人が多いことを感じた。特に男性陣がむずかしかったように感じた
- グループの方の意見を聞くことができ、より深まりを感じた時であった。
- コミュニケーションのむずかしさを経験出来て良かった。

- 演習をして、身につける事ができると再確認をした。
- 一人一人それぞれが多様な考えを持っていること、その為には自身の考えをキチンと伝えると共に、他人の意見を聞き入れる力が必要と思った。
- 災害の少な地域での生活で解からない事が多くあった
- 女性特有の問題をかかえている人に男(老人)では対処のハードルが高い
- どこまで、踏み込んで話したらいいのか、切り口が難しい
- 内容の深さをどこまでしたらいいのか難しかった
- それぞれの立場によりそえるようになりたい
- 初対面との対話がぎこちなかった
- 男児がいるシングルマザーへの聞きとりを行った。最初惑ったけどまあまあ上手くできた

基礎講座2 避難所運営の担い手との連携・協働

○理解度 (N=98)



約95%が「理解した」と回答

前橋市 (N=55)	矢掛町 (N=43)																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	34%	おおむね理解	62%	あまり理解していない	4%	理解していない	0%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	30%	おおむね理解	63%	あまり理解していない	5%	理解していない	0%	無回答	2%
理解度	割合																						
よく理解した	34%																						
おおむね理解	62%																						
あまり理解していない	4%																						
理解していない	0%																						
理解度	割合																						
よく理解した	30%																						
おおむね理解	63%																						
あまり理解していない	5%																						
理解していない	0%																						
無回答	2%																						

○印象に残ったこと

前橋市

- チームで力を寄せ合い解決するという事
- つなぐ事の重要性・情報の管理
- 自分自身だけでは何もできないので連携・協働の必要性を理解した
- チームワークの大切さ、運営の担い手同士の共有・協働
- アイスブレイクイメージ体感が良かった
- 「情報」の大切さを感じた
- 知らない、初めて会う人達が集まっている中でこそ報連相が非常に重要になること
- 自分でわからないことは譲歩上お共有してつないでもらう
- 課題解決の考え方・相手を知る
- どのように連携をはかるかは大切だと感じたが、実際に上手出来るかは不安だが、一つでも困りごとを改善できるように協力をしたと思った
- グループ内の皆さんに感じた頃思っていることとらえ方が聞くことができて良かった
- それぞれの専門職と連携、情報共有することの大切さがよくわかった
- 担い手が多くいること・連絡手段がある
- 各種のサポーターとの連携の重要性を認識した
- 様々な人たち、当事者も含めて協働していくことが大切だと思った
- 被災者の困りごとは表面だけでなく内部のものもある
- 一人で抱えず協力を求めていくことの大切さを感じる事が出来た

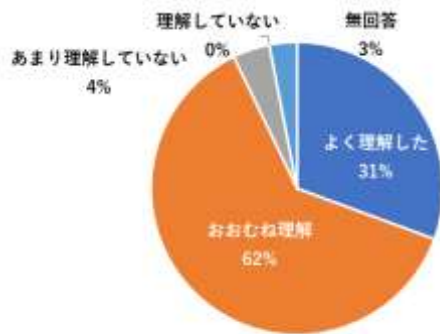
- パイプ役は重要、一人で抱えないで伝えていく処理
- 状況を良く覚えてないと大変
- 担い手の種類がよくわかった
- 避難所に入ってくれない様々な組織の多さ
- つなぐ・つなげる・つながる
- 説明が非常によくわかりやすかった
- 連携や協働の大切さを知ることが出来た
- 困り事に対して被災者と一緒に考えること
- グループのワークはとても良かった
- 改めての気づきなどたくさんあった

矢掛町

- 全員で取り組む問題解決
- 周りには、能力がある人が多いということ
- 連携の窓口があるのかどこに話を持っていけば良いのかそもそもがわからなかった。連携の重要性はわかったが
- 一人（ひとつの団体）ではなく、想像していた以上に多くの人や団体が避難所運営に関わっていくことを知った。それぞれの強みを持ち寄って問題解決にあたっていく
- 課題発見・課題解決力は小さな体験の積み重ねだと思った
- 共感力と協働力は日頃から人との関わりの中で学んでいくことが必要だと思った
- 被災者の困りごとの把握の重要性
- 双方の可能性とキャパを理解し、今の想いを知り、そこからの合意形成の大切さを再認識した
- 担い手、リーダー・サポーターの役割の重要性
- 被災者が参加できる体制をととのえること。
- 1人ですべてができるわけもなく、たくさんの人たちとの協力、コミュニケーション関係性が不可欠だと思った
- 聴くスキル。その中で相手に考えていただくスキルの重要性を！
- 具体的な説明でよかった
- 困りごとの気づきから次のステップ、そして、解決に向うやり方が理解できた
- 連携に対して、知らない集団が、多く、私の知識が深まった
- 今後は後継者を増やし運営して行かねばならない
- 特に重要だと実感した。避難所担い手との連携・協働がなくては進められない。まとめられないと実感した
- 水面下の事項を押しはかる必要がある
- 他の運営者との連携の実習をもっとし、協働の体験をしたかった
- 避難所運営は被災者、支援者、皆とともに協力する
- 具体的な課題がとらえられた
- 多くの人との協働が必要

ワークショップ2 情報共有・認識共有・合意形成の必要性

○理解度 (N=98)



約90%が「理解した」と回答

前橋市 (N=62)	矢掛町 (N=43)																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	33%	おおむね理解	60%	あまり理解していない	3%	理解していない	0%	無回答	4%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく理解した</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>おおむね理解</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>あまり理解していない</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>理解していない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	よく理解した	28%	おおむね理解	65%	あまり理解していない	5%	理解していない	0%	無回答	2%
理解度	割合																								
よく理解した	33%																								
おおむね理解	60%																								
あまり理解していない	3%																								
理解していない	0%																								
無回答	4%																								
理解度	割合																								
よく理解した	28%																								
おおむね理解	65%																								
あまり理解していない	5%																								
理解していない	0%																								
無回答	2%																								

○印象に残ったこと

前橋市

- 関係団体の役割などがはっきりわからない部分もあったかと思った
- 皆さんで意見を出し合うことで自分以外の他の気づきなど違う視点の問題に気付くことができた
- チームワークの大切なことが分かった
- いろいろ考えさせられた。P24 運営の担い手リストがありそうな内容だった
- 気付いたことをどのように情報共有し解決に結び付けていくのか難しく感じた
- 色々な視点から見た情報を共有していくこと
- 住民の方にとって何が必要な情報で何が必要かを住民と共有することの大切さも少し分かった気がする
- 答えはないと言われたが、人の話を聞くともっと考えや思いが浮かんできている
- 話し合いをすることで「誰に」「何を」依頼するのかこれはどの団体に話をするのか整理して考えていくことは難しいと感じた
- 避難所の設営を研修に入れてもらいたい。各避難所の実際のレイアウト等を行う
- 他の人の意見等が聞けて改善する重要性を感じた
- 情報のアンテナも保持も必要と思う
- つなげることが大切だと思った
- 提案するときには誰の意見かはっきりさせる
- 知ったことを共有し発進させていくことの大切さを理解することができた

- 報連相と必要なことを共有する大切さを知った
- 要はコーディネーター力が必要と思った
- 意見交換など議論してよかったと思った
- 行政・自治体等の指示が重要かと
- さまざまな場所での困りごとがつながっていたりしたこと
- 本当の避難所運営はきっと難しいんだろうと感じた
- 体験型は非常に役立つと思う。書物だけでは理解が不足
- 情報共有の大切さを知った。つなぐを大切にしたい
- 改善のためにどこにつながればよいか
- 正確に情報を読み取る事。
- 最初、ワークショップの求めている内容がわからなくて戸惑った
- ワークでは、さまざまな内見が出てとても有意義だった

矢掛町

- 情報が多い事のメリットデメリットの複雑さ
- 見てまわったのが、とても勉強になったので、こうゆうワークショップの休憩時間に見てまわってもいいよの声かけがあるといいと思った
- 物資についてグループで協力して発表することが出来た
- 記入方法（ねらい）の把握が少し難しかった
- 最後の発表ですが、同じテーマで話し合ったグループ同士で、ポスターセッションのやり方で話を聞いた方が良かった
- それぞれのグループの発表は、同じテーマを扱っていてもそれぞれ視点が少しずつ違っていた。多くの人に関わることによって、欠けたところを埋めていってよりよいサポートができるのかなと感じた
- 進め方がちょっと難しかったがいい経験になった
- 視点がそれぞれ違うこと
- 演習の意図、目的が良くわからなかった
- 課題がとてもむずかしく感じたが、発表者の方がとても上手にまとめて下さり良いものとなった
- カテゴリー分けが難しかったが、グループ内で異なった視点からの取組(活動)が案として出されたので学ぶことが多かった
- 避難所に関わっている運営の担い手リストで知らないものがあったってわかってよかった
- 人によっていろんな考え、なやみがあることを学べた
- やってみること!! 昨日の避難所づくりも同様、大切だと思った
- 情報共有から合意形成までが必要性の確認
- 支援するいろんな団体や人材があること、この方たちとの連携のとり方
- すべてはその現場によって異なる。マニュアル通りにはいかないことが多い
- 基本的な理念というか、奥にあることに気づくこと難しさを感じた
- 全体像が見え、自分の中でもし、こういう場面、というか、直面した時に役立てたいと思った
- これが正解だけではなく、解決していく為の協力をしていくのに、いろいろな対応が必要だと

感じた

- 合意形成の必要性がひしひしと理解できた
- トイレ掃除のところだったが、シートへの張りつけに少し理解に時間がかかってしまった
- 全て何事でも情報共有は必要
- 情報共有・認識共有が大事だと実感した。その後の合意形成でまとまっていけるのだと思った
- 最後の演習、短時間でうまくまとまった
- 多様な考え方がある中で、共通の理解がしあえる環境づくりの難しさ
- 被災者とともに解決方法にもっていく。具体策を考える一助になった
- 弱い立場(それぞれによってちがうけれども)より近づくことができればと思った
- 物資の項で、いろいろ活潑な意見あった
- 各説明が聞きやすく受け入れやすかった

Q3. 3日間の研修全体を通してご意見をお聞かせください。

前橋市

- 避難所の受付や食事ペース情報コーナーなどの効果的な配置について
- 自身を振り返ると子供の障害のこと、犬や猫のこと、外国語の対応などもう少し学びたかった
- 声掛けの難しさを感じた
- 過去に受講した研修よりもリアルで最もよかった
- 最後の情報共有・認識共有・合意形成についてより具体的にじっくり学びたい
- より具体的（演習を中心とした）内容（避難所運営）を学びたい
- 演習より実体験的に理解することができた
- 実際の避難所での出来事とともに改善されてきた事などが知りたい
- 今後もこのような研修を受けられる機会があれば、自分自身の学んできたことを少しでも視野が広がるよう参加したい
- 今後は自治会や行政の方と一緒に避難訓練などできればいいと思う
- 組織の構図を知っていたほうが良いと思った。国→県→市→各市町村→自治体→自治会長施設管理者（校長）これを理解したうえで自分の立ち位置をさらに理解した上でうまく調整する必要があること。そうすると三日目の連携や協働の必要性より理解できる
- 地域互に被災形状は異なる。それに合った研修のほうが良い
- ロールプレイはやはり繰り返しが必要
- 中長期の避難所のことをもっと理解したい
- 一番深めたいと思ったのは声のかけ方をもっと学びたい。地域でどう平時に活動していけばよいかも知りたい
- すべてが未体験でとても素晴らしい講義
- 避難所の具体例をネットで調べてみたい
- 避難者との相互理解（コミュニケーション）
- 聴覚など（障害者）対応などしてほしい
- くりかえしの受講が一番

- 実際の避難所での状況が知りたかった
- 運営の担い手の方たちの会議についてどのような話し合いをするのか？
- 3日間ほんとうにどれも大切だと感じた
- 避難所開所期や閉所期の支援の例を聞けると被災者がどんなメンタル状態なのかが想像できる
- 二日間は長い

矢掛町

- 支援の窓口をよく知りたかった
- 最後の実際の運営するワークショップをもう一度やってもいいかとも思う
- 過去の事例に基づく改善点などを知る機会があればと思った。
- 出来たら各グループにお一人、進行役やアドバイザー的な役の方についていただき、進める方がより深まった
- モデルケースなので、いろいろなやり方で試してみるのも良いと思った
- とにかく内容の濃い3日間
- 講師の方々がこれまでの経験から得た多くの知識・情報・ノウハウなどを惜しみなく提供してくださり、貴重な時間だった
- 演習のなかで避難所の疑似体験をできたことはよかった。平成30年7月豪雨の際に短期間でしたが避難所が開設された。でに何もできなかったのが後悔がある。実際の災害時には研修通りにはいかないでしょうし正解も一つではありませんが、万が一の際には少しはお役に立てたらいいなと思う
- 実際に連携できる外部機関の種類、また連絡の方法が知りたい。
- 対象者特に要配慮者への専門的対応をさらに具体化していくことは私達の課題
- 被災者への聴き取りの仕方x{2014}訓練の必要性を痛感
- 一人ひとりを大切にする。要望になるべく応えていく。この為にはよりコミュニケーション能力を高める(知識の獲得とか)など、もう少し時間があればと思った
- いろいろな方がいらっしゃる状況で、とても勉強になった
- 避難所の課題と生活環境の整備
- もりたくさんな、内容でしたが、なんとかやることができた
- 対人コミュニケーション講義(演習)がむずかしかった
- 今回は1ヶ月後の設定でしたが、できれば初期立上げ時のプログラムをやってもらいたい。
- しっかり勉強できたが、なかなか身につけません。3日目のコミュニケーションはもっと気がつく力と相手を気づかう力を身につけたい。
- 被災者の立場に立って考える事が多かったのも、その考えによりそえる・より理解を深めたい
- 100日経過した想定避難所。こうした状況となれば、大災害ということになるでしょう。演習での体験は、日頃の生活の中でも、活かせることと思う
- 3日間のワークショップがリンクする内容にできたらもっと現実的な訓練ができるのでは
- 人間の尊厳を大切にする。被災者が主体であるが、今度は、自分が被災者になる。日本人である為にも、「お互い様」の精神を大切にしたい

Q4. 3日間のプログラムを通して、見直した方が良い点があればお聞

かせください

前橋市

- 実際の避難所運営など確認出来て良かった
- 演習時に黙って肩越しに（委員・見学の人）後ろから見られるのはやめて欲しい
- 毎回異なるグループで様々な方と交流でき協力して参加できてとても良かった
- 幅広い視点を持つことの大切さ、現場は常に流動的ということがわかったが、基本的な考えを示した後の発展形として、様々な選択枠があると段階的に話を進めていただけるとよかった
- 学校長や自治会長さんの多くの参加が必要。言われたからなどの参加者がおりこのような貴重な機会なのにもったいないと思った
- その場その場での避難所生活での違いのDVD等があれば参加になる
- 避難所が開設してすぐの混乱しているとき、私たちは関わった方が良いのかを知りたい
- 個別で考える時間が短かったのもう少し時間が欲しい
- 時間が少し足りないように感じた
- 実際の避難所での話をもっと聞きたかった
- 演習の時間・ふりかえりの時間をもっとあっても良いのかと、また一つプログラムを掘り下げるのも楽しい（理解が深まる）と思う
- 情報量が多く、咀嚼できたかが不安だが、はじめの一步を踏み出せた気がした。
- 日程の過密さを感じた
- 二日目が雪だったので、できれば他開催日したほうが良かった
- 年末の三日間は大変。講習の日程などは考えて欲しい
- 少し時間が長い気がした
- 実施時期について要検討していただきたい
- リーダーという名称は誤解を招く

矢掛町

- 若い人を集めてやった方がよいのでは。学校で必修にしては？教員試験の必修にしては。年寄りには呼ばないで。
- 座学の時間が長かったと感じた
- もう少し避難所の設営など、会場施設をフルに活用して具体的に動くタイプのワークショップの時間があっても良かったのではないか
- 2日目・3日目のように終日研修が2日続くのは大変。1日目と2日目のように間があいてしまうと記憶も薄れてしまうので、それぞれ一長一短あり難しい
- ボリュームもかなりあるので、入門編のような回があってもよい
- 事前のオンライン講習は不要だったのではないか
- 3日間ともグループが変わって、コミュニケーションの勉強になった
- 長時間の活動だったので、体力的にきつと感じた
- 演習は時間を多くあれば、時間の長さは気にならない

- 専門職と合同のプログラム(共働)にしてほしい
- 内容が多すぎる
- 3日連続はちょっときつい。できれば日をあけてほしい
- 休憩時間は10-15分が良い(5分間の休憩は意味がない)
- 終了時間が17:00は遅い たとえ9:00スタートにしてでも16:00には終了すべき。
- 高齢者が多いので60~90分ごとに休憩が必要
- 各班での成果物が見えにくい
- カメラで写真としてスクリーン(プロジェクター)で提示すれば、もう少し見えやすい
- 参加対象者を避難所について知識のある人に限定してほしい
- 限られた時間の中で考えて進めていくのは、研修でも、災害時でも一緒だが、もう少しじっくり考え、グループで話のできる時間もあると良かった
- 時間に追われるところがあり、時間が足りない
- ワークショップ等で言葉(考え等)を文字にするのが難しかった
- 3日間を通して、自分自身がより優しくなれたと思う
- 1日と2・3日目の間隔があり、1日目研修内容の記憶が薄れてしまった
- 人々の笑顔のために生きる活力のために活動していきたい